| =# ** | 4470 | 된모든스 | 主四松 |
|---|--|------------|-----------------------------|
| 講義コード | 1178 ケンコウスポーツジッシュウ(スイエイ・スイチュウウンドウ) | 科目区分 | 専門教育科目(スポーツ健康福祉専攻) |
| 授業科目名 | 健康スポーツ実習(水泳・水中運動) | 担当教員名 | 國木孝治/岡崎祐介/福田一儀 |
| ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,, | | | |
| 英文授業科目名 基準年次(開講期) | Practicum in Health and Sports (Swimming and Water Exercise, Water Safety Program) | | |
| 曜日/時限/講義室 | 2年生(前期) 選択 | | |
| | | 授業の方法 | |
| 授業の方法 | 実技 | (詳細情報) | 実技中心、演習中心 |
| 単位 | 1 | 週時間 | 2 |
| 授業のキーワード | 中・高等学校保健体育(水泳)、日本ライフセ | ュービング協会「ウォ | ナーターセーフティ」、水上安全、近代泳法、アクアビクス |
| 授業概要・目的 | 本授業は、水泳および水中運動で行われる各種目に関して、水辺の安全や事故防止について理解したうえで、生涯を通じて水に親しむことを第1の目的としている。第2に、中・高保健体育科教員やスポーツリーダーとして必要とされる基礎的な技能および指導法を、実践を通じて身につけることをねらいとしている。 | | |
| 到達度評価の 評価項目 | 水を媒体とした運動は、日常生活とは異なった環境のもとで行われるため、身体に対してさまざまな影響を及ぼす。より安全で有効に行うための指導法として、次の理論および実技を獲得することを到達目標とする。 ・各種泳法において続けて長く、早く泳ぐための基本的な技術及び知識を習得することができる。 ・年令、性差、発達段階における特性の理解とその指導ができる。 ・水の特性を理解し、水辺の安全管理と事故防止ができる。 ・保健体育教諭(中・高)を目指す学生については、水泳に関する指導力を身につけることができる。 | | |
| | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| #1E | 水の性質、水中運動前の安全対策、浸水時の生体反応 | | |
| 第2回 | ウォーターセーフティ① | | |
| | 入退水、浮き身、立ち泳ぎ | | |
| 第3回 ———————————————————————————————————— | ウォーターセーフティ② DED(ライフジャケット) 美田 美衣泳 拗目 | カの手 III | |
| | PFD(ライフジャケット)着用、着衣泳、救助の手順 アクアフィットネス① | | |
| | アクアビクス(水中歩行) | | |
| 第5回 | アクアフィットネス② | | |
| | アクアビクス(水中レジスタンス運動) | | |
| 第6回 | 水泳(泳法)① | | |
| | 端伸び、呼吸法、各種泳法動作 | | |
| 第7回 | 水泳(泳法)② | | |
| | 背泳ぎ: 基本泳法、ターン | | |
| 第8回 | 水泳(泳法)③ | | |
| 第0回 ———————————————————————————————————— | 背泳ぎ:指導法 | | |
| 第9回 | 水泳(泳法)④ | | |
| | クロール: 基本泳法、ターン | | |
| 第10回 | 水泳(泳法)⑤ | | |
| | クロール: 指導法 水泳(泳法)⑥ | | |
| 第11回 | 平泳ぎ: 基本泳法、ターン | | |
| | 水泳(泳法)⑦ | | |
| 第12回 | 平泳ぎ:指導法 | | |
| 第13回 | 水泳(泳法)⑧ | | |
| | バタフライ: 基本泳法、ターン | | |
| 第14回 | 水泳(泳法)⑨ | | |
| | バタフライ: 指導法 | | |
| 第15回 | 授業総括 | | |
| | 泳法テスト、まとめ | | |
| 教科書·参考書等 | ・日本水泳連盟編(2012)水泳指導教本. ・日本ライフセービング協会編(2012)ウォーターセーフティ教本. ・健康・体力づくり事業財団編(2009)健康運動実践指導者養成用テキスト. | | |
| 授業で使用する 機器等 | キックボード、レスキューチューブ、スローロープ、PFD(ライフジャケット) | | |
| 予習・復習への | 本授業は、学外施設(屋内プール)を利用して実施する。授業以外の時間を積極利用し、泳法修得の復習を行うことが望ましい。 | | |
| 履修上の注意・ 受講条件等 | ・中学校および高等学校保健体育免許取得要件科目 ・校外での授業のため、別途費用(施設利用料)がかかる。 | | |
| 成績評価の基準等 | 次の3つの観点から評価する。 ・授業に取り組む姿勢(50/100) ・水泳水中運動の理論・ウォーターセーフティに関する学科テスト(25/100) ・技能習熟度(25/100) | | |
| メッセージ | ・水着、スイムキャップ、ゴーグルは各自で準備のこと ・水着は競泳タイプのものが望ましい | | |
| オフィス・アワー | 各期オフィス・アワー時に國木孝治研究室(7号館:726)にて対応する。 | | |
| その他 | 本授業を履修することで、日本ライフセービング協会認定「ウォーターセーフティ」資格を認定・発行することができます。 | | |
| | I . | | |